

日本洞窟学会第 48 回大会（西予市大会）大会記録

Reports of the 48th Speleological Congress 2022 at Seiyo City

長谷川幸祐 (HASEGAWA, Yukihiro)

日本洞窟学会大会記録委員会・カマネコ探検隊・山ロケイピングクラブ・火山洞窟学会所属 東京都在住

1. はじめに

2022 年（令和 4 年）度の日本洞窟学会大会が 11 月 5 日（土）～6 日（日）の日程で愛媛県西予市にて開催されました。今大会も昨年の大会同様「国際洞窟・カルスト年 2021(IYCK2021)」の一環で日本洞窟学会による関連行事も開催されました。

本年度もまだまだ新型コロナウイルス (COVID-19) の収束がみられず、感染拡大予防の観点から巡検は実施されませんでした。昨年よりも多くの現地参加者があり、社会活動再開の兆候と感じられました。2022 年 4 月に開館したばかりの真新しい「四国西予ジオミュージアム」を会場にして学術講演・特別講演が行われ、盛んな意見交換が行われました。

また IYCK2021 関連イベントとして、IYCK ポスター展、公開講演会、市民向け洞窟・カルスト巡検、学生向け座談会・羅漢穴講習会も開催され、会員のみならず一般および学生の方々にも洞窟の魅力にふれる機会になったことと思います。

参加者数は、学術講演会および特別講演では現地参加 56 名（内一般参加 11 名）、オンライン参加 13 名。公開講演では現地参加 20 名、オンライン参加 10 名。市民向け洞窟・カルスト巡検では 17 名。学生向け座談会・羅漢穴講習会には約 30 名と多くの方々に参加していただくことができました。

今大会の開催状況を皆さまにご報告いたします。

期 間:2022 年 11 月 5 日（土）～6 日（日）

場 所: 四国西予ジオミュージアム

（愛媛県西予市城川町下相 945 番地）

主 催: 日本洞窟学会（学会長: 山田 努）

共 催: 西予市

大会長: 山田 努（東北大学・日本洞窟学会会長）

大会実行委員長: 村上崇史（美祢市文化財保護課）

2. 開催にあたっての挨拶（プログラムより）

日本洞窟学会第 48 回大会が開催される愛媛県西予市は、日本三大カルストの一つにも数えられる「四国カルスト」を有し、標高 1400 m から海拔 0 m に至る市域に多種多様なカルストが点在しています。この日本を代表するカルスト地域とも言うべき西予市に、2022 年 4 月 23 日、「四国西予ジオミュージアム」が開館しました。本大会はこれを祝賀して西予市城川町を主要な会場として開催されます。また、本年は国際洞窟学連合 (UIS) が提唱する「国際洞窟・カルスト年 2021(IYCK2021)」の最終年でもあり、洞窟やカルスト地形の保護と教育普及を目的としたイベントが国際的に広く行われています。

その一環として、本大会期間中やその前後に、市民の皆さまに洞窟学・カルスト学に親しんで頂くためのポスター展や公開講演会、洞窟・カルスト巡検も開催します。これらの活動を通じて、西予市、ひいては四国地域での洞窟活動が活発化し、多くの成果が上げられることを期待したいと思います。

3. 大会日程

2022 年 11 月 5 日（土）

13:30～13:45 開会式

13:45～15:45 学術講演会（7 演題）

16:00～17:00 特別講演: 愛媛の洞穴探検の夜明け

講演者: 山内平三郎 (NPO 法人沖縄鍾乳洞協会)

2022 年 11 月 6 日（日）

8:45～11:45 学術講演会（10 演題）

12:00～ 閉会式

学術講演会

学術講演会は愛媛県西予市の四国西予ミュージアム企画展示室で開催され (P1)、発表形式は昨年の大会同様現地会場とオンラインで行われました（現地発表 9 演題、オンライン発表 8 演題）。

大会初日は開会式として村上崇史大会実行委員長 (P2) と石原与四郎日本洞窟学会副会長 (P3) のご挨拶で始まり、学術講演会に移りました。初日は 7 演題が予定されていましたが、オンライン機器の不具合で 1 演題は翌日の早朝に振替となりました。洞窟に関する様々な分野からの研究成果が発表され、既定の講演時間が足らなくなるほどの充実した内容でした (P4,P5,P6,P7,P8)。

学術講演会に続いて特別講演は山内平三郎氏により「愛媛の洞窟探検の夜明け」という演題でご講演頂きました。ご尊父の山内浩先生とともに愛媛だけでなく日本全国においてご活躍なさった時のお話や、日本の洞窟探検の黎明期における貴重なお話を拝聴することができました (P9)。

2 日目の学術講演会は当初 8 時 45 分から開始予定でしたが、前日の機材トラブルのため 1 演題が振替となり、開始は 8 時 30 分に繰り上げられ、合計 11 演題の発表となりました。早朝にもかかわらず、皆さん熱心に講演に聴きいていらっしゃいました (P10,P11,P12)。

講演内容は石灰岩洞窟だけではなく、火山洞、海食洞に至る洞窟全般からの発表で、研究対象の地域は開催地の羅漢穴や中津川トゥファを始め、東北から沖縄まで日本各地に至り、さまざまな地域の洞窟に関連する研究成果や、ケイビングのあり方などが報告され、大会ならではの多方面にわたる幅広い見識を得る機会となりました。